

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果(概要)について

令和7年4月17日(木)に行われました『令和7年度全国学力・学習状況調査』の概要です。

調査の目的

全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と分析を検証し、その改善を図る。

学校における児童生徒への学習指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

調査概要

調査実施日 令和7年4月17日(木)

中学校理科CBT調査は14日(月)~17日(木)に分散実施

調査対象 児童生徒:小学校6年生、中学校3年生

調査事項 児童生徒:教科調査[国語、算数・数学、理科]/質問紙調査

調査問題 学習指導要領で育成をめざす、知識及び技能や思考力、判断力、表現力を問う問題を出題

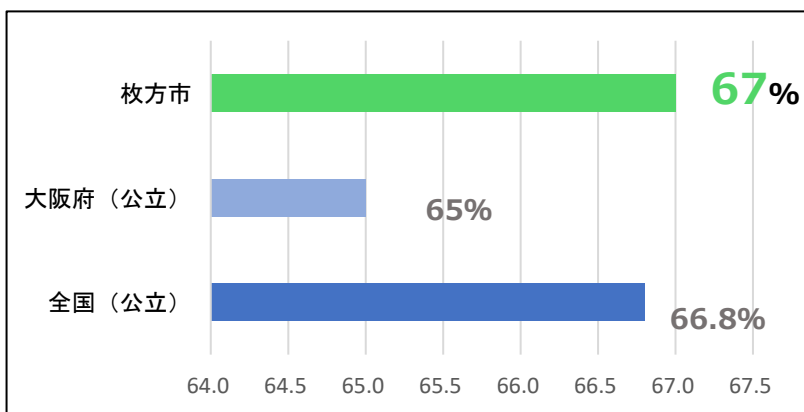
「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善のメッセージを発信

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について<小中学校 概要>

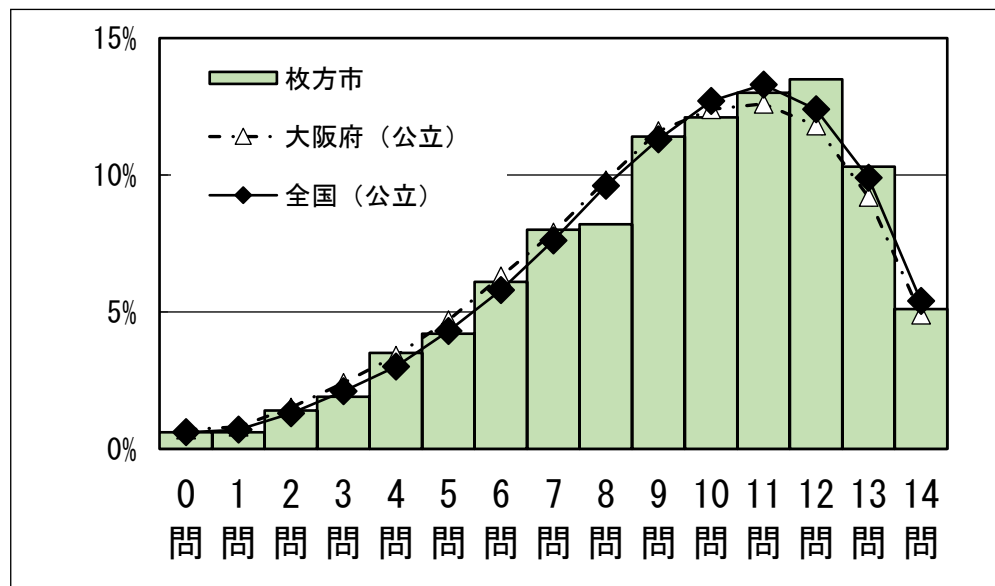
小学校【国語】

平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
国語	67%	65%	66.8%



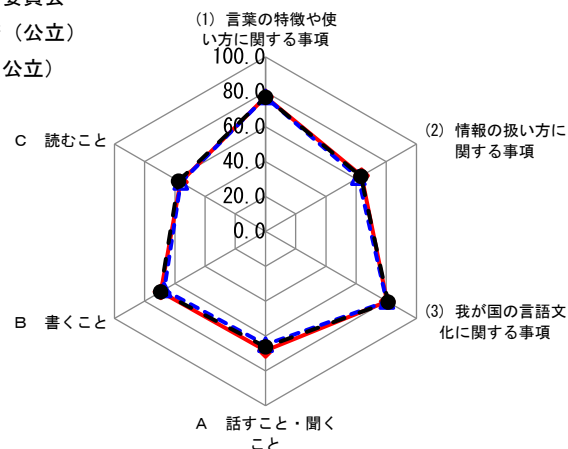
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



● 貴教育委員会

▲ 大阪府（公立）

◆ 全国（公立）



小学校【国語】では、全国平均を上回っています。

領域別にみると

「A 話すこと・聞くこと」の領域では全国を上回っています。

「C 読むこと」の領域は全国平均を若干下回っています。

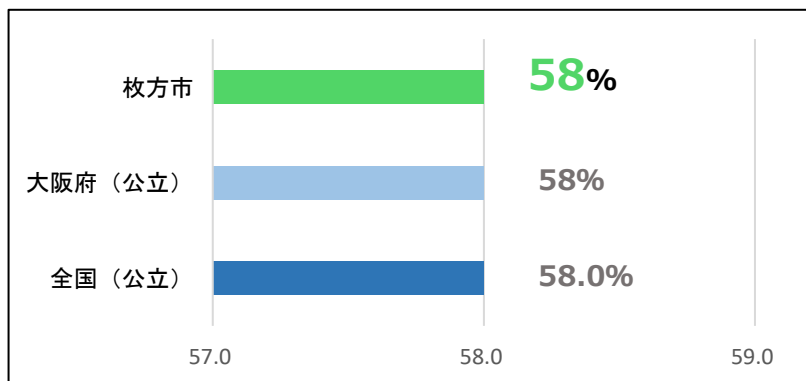
学習指導要領の領域の平均正答率の状況

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について<小中学校 概要>

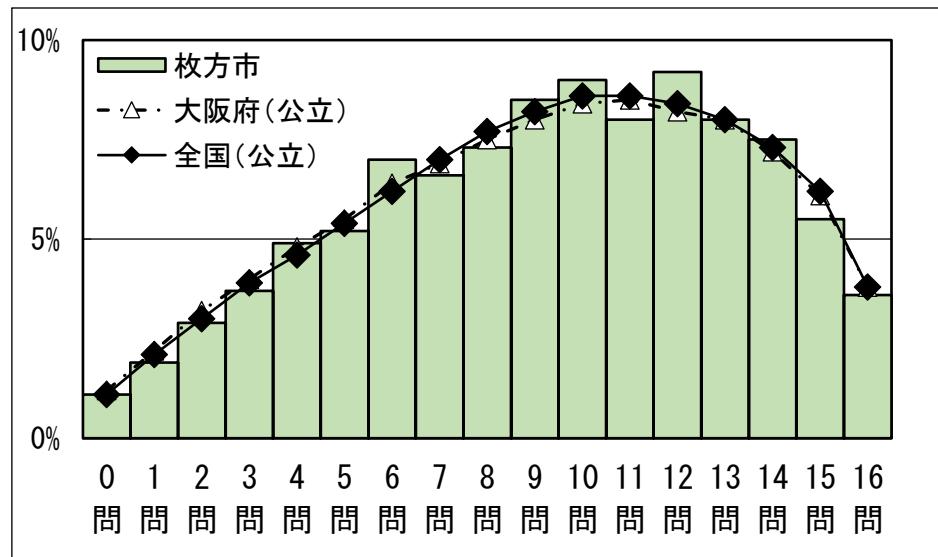
小学校【算数】

平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
算数	58%	58%	58.0%



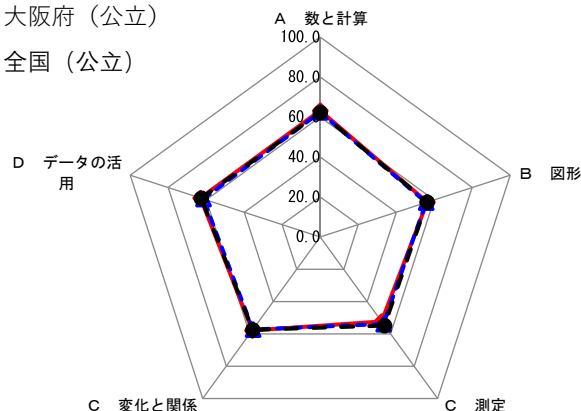
正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



—●— 貴教育委員会

---△--- 大阪府（公立）

-●- 全国（公立）



小学校【算数】では、全国平均と同等です。

領域別にみると

「A 数と計算」の領域では全国平均を若干上回っています。

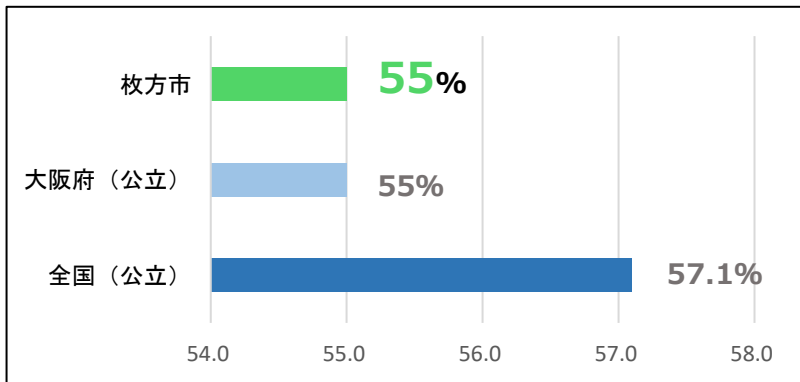
「C 測定」の領域は全国平均を若干下回っています。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について<小中学校 概要>

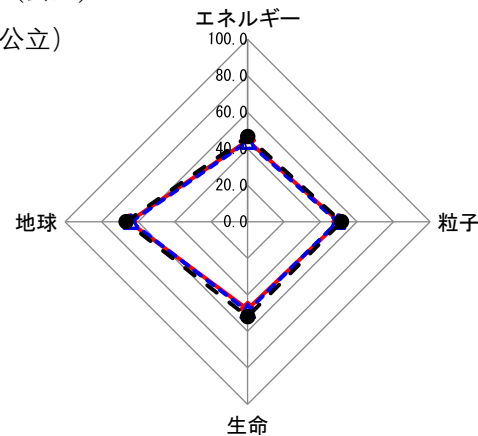
小学校【理科】

平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
理科	55%	55%	57.1%

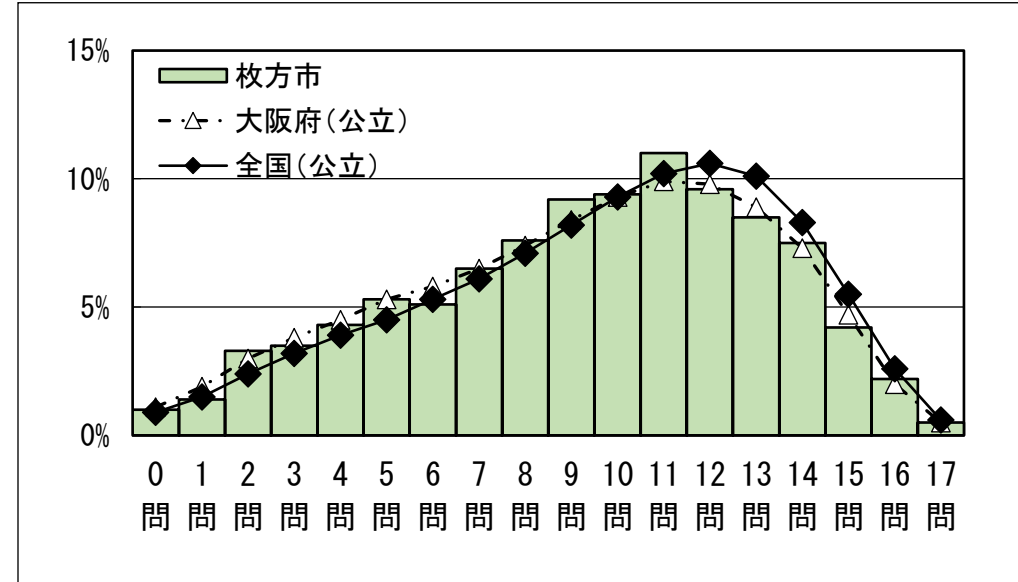


- ◆ 貴教育委員会
- △ 大阪府（公立）
- 全国（公立）



学習指導要領の領域の平均正答率の状況

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



小学校【理科】では、全国平均を下回っています。

領域別にみると

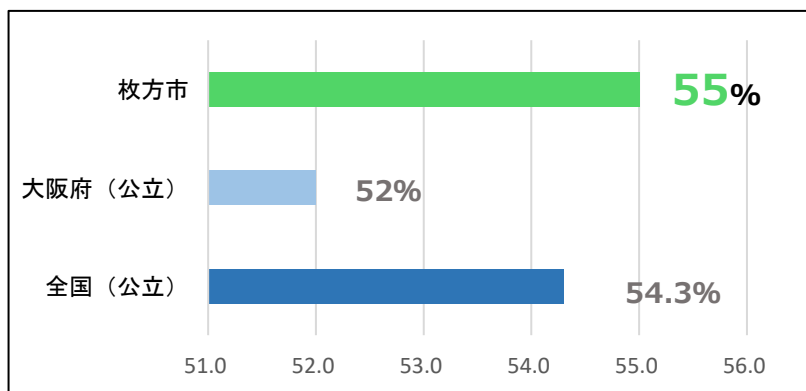
特に「エネルギーを柱とする」領域、「生命を柱とする」領域で全国平均を下回っており課題が見られ、平均傾向とともに大阪府と同様の傾向があります。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について<小中学校 概要>

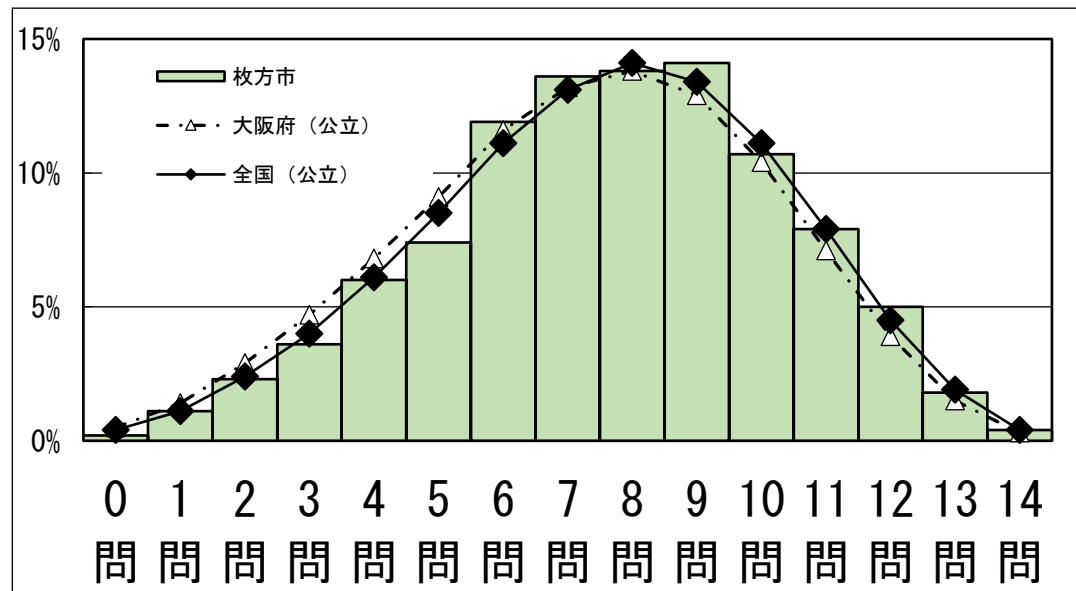
中学校【国語】

平均正答率

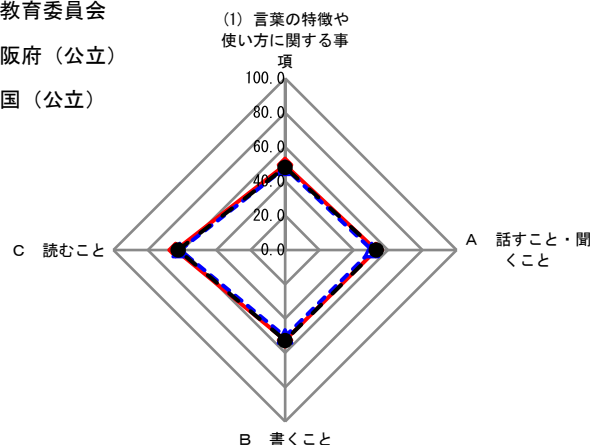
平均正答率	枚方市	大阪府	全国
国語	55%	52%	54.3%



正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



● 貴教育委員会
 ▲ 大阪府（公立）
 ◆ 全国（公立）



中学校【国語】では、全国平均を上回っています。

領域別にみると

「C 読むこと」の領域では全国平均を上回っています。

「(1)言葉の特徴や使い方に
関する事項」の領域は全国平均を若干下回っています。

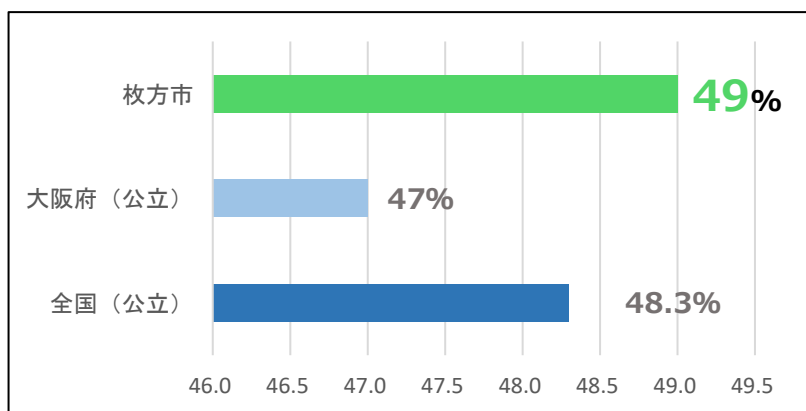
学習指導要領の領域の平均正答率の状況

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について<小中学校 概要>

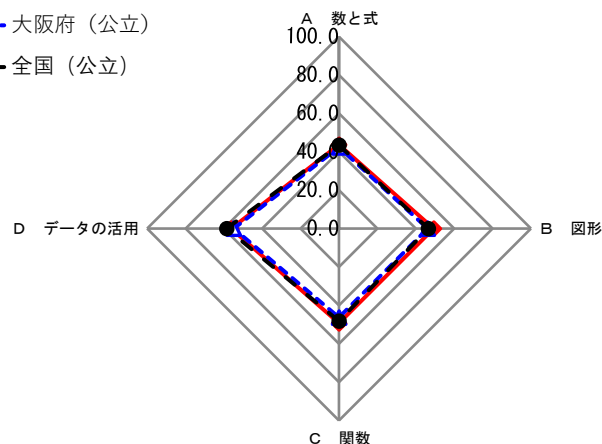
中学校【数学】

平均正答率

平均正答率	枚方市	大阪府	全国
数学	49%	47%	48.3%

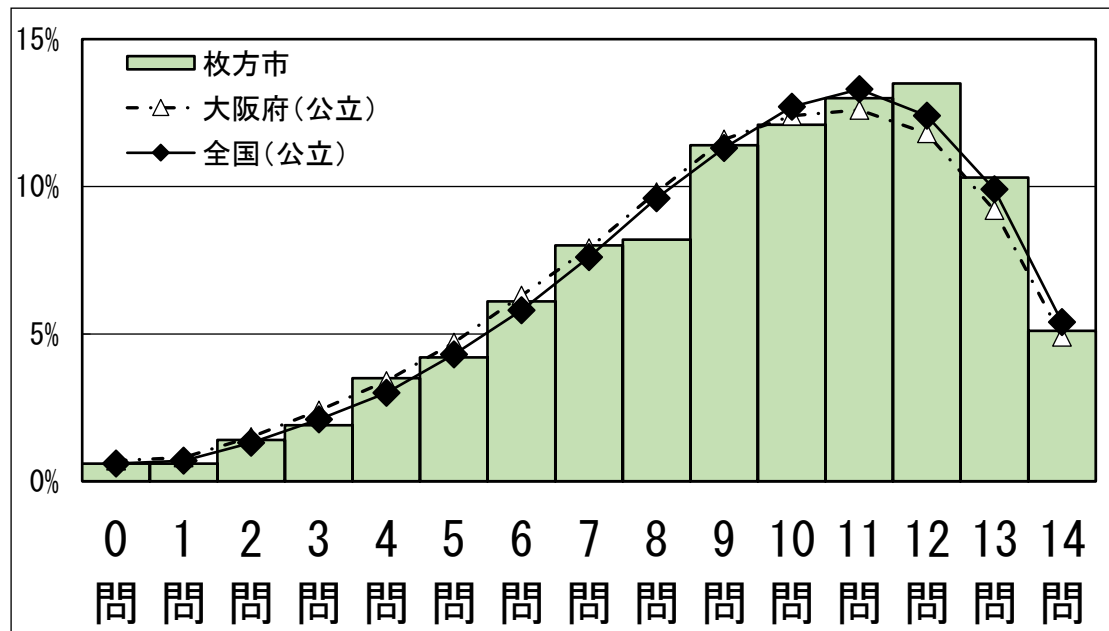


● 貴教育委員会
 ▲ 大阪府（公立）
 ● 全国（公立）



学習指導要領の領域の平均正答率の状況

正答数分布グラフ（横軸：正答数 縦軸：割合）



中学校【数学】では、全国平均を上回っています。

領域別にみると

「B 図形」の領域では全国平均を上回っています。

「D データの活用」の領域は全国平均を下回っています。

令和7年度 全国学力・学習状況調査の結果（概要）について＜小中学校 概要＞

中学校【理科】

今年度より、中学校（理科）はCBT（Computer Based Test）による調査を実施。
IRT（項目反応論）スコアをベースに結果を示しております。

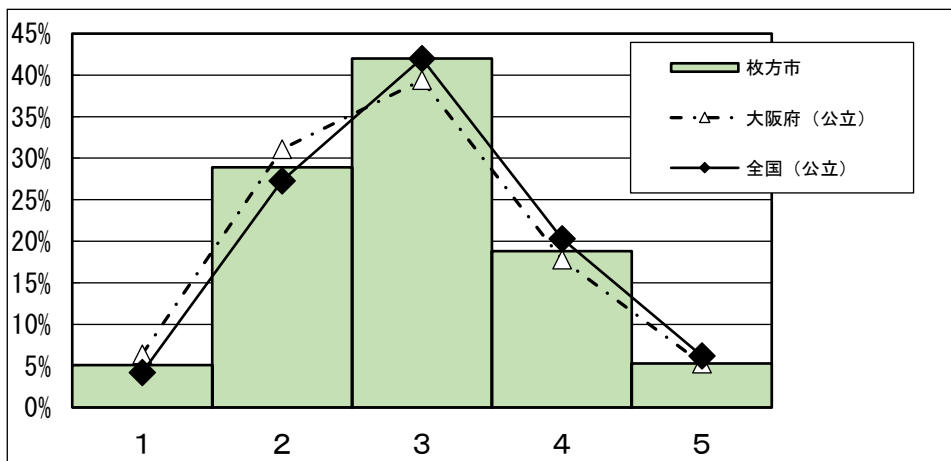
IRTスコア（基準値500）

中学校	枚方市	大阪府	全国
理科	495	487	503

IRTスコアとは？

IRTとは、児童生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度・測定精度）によるか、児童生徒の学力によるかを区別して分析し、児童生徒の学力スコアを推定する統計理論です。本理論に基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にした得点で表すものをIRTスコアといいます。

IRTバンド分布グラフ（横軸：IRTバンド 縦軸：割合）



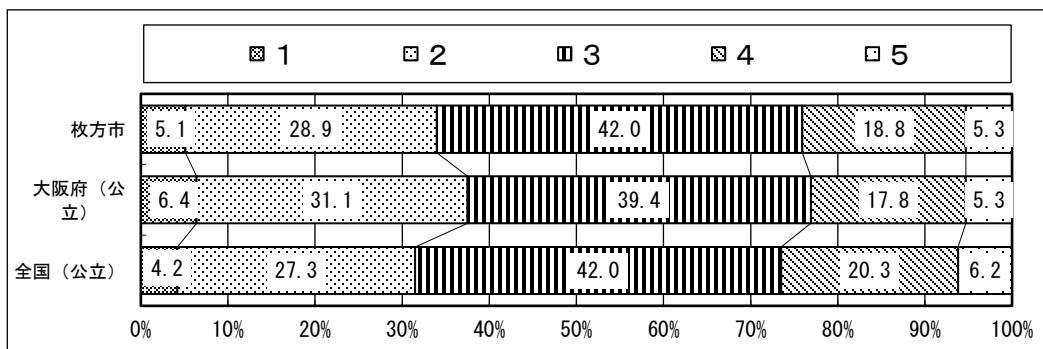
IRTバンドとは？

- ・IRTスコアを1～5の5段階に区切ったものです。**3を基準**のバンドとし、**5が最も高い**バンドになります。
- ・IRTスコア・IRTバンドは、**難易度の高い問題に正答していると高め**に、**難易度の低い問題に誤答していると低め**に算出されます。

※IRTバンドをIRTスコアに換算すると、およそ以下のような対応関係になります。

IRTバンド	1	2	3	4	5
IRTスコア範囲	～350	350～450	450～550	550～650	650～

IRTバンド分布比較



中学校【理科】では、平均IRTスコアは全国平均を下回っています。

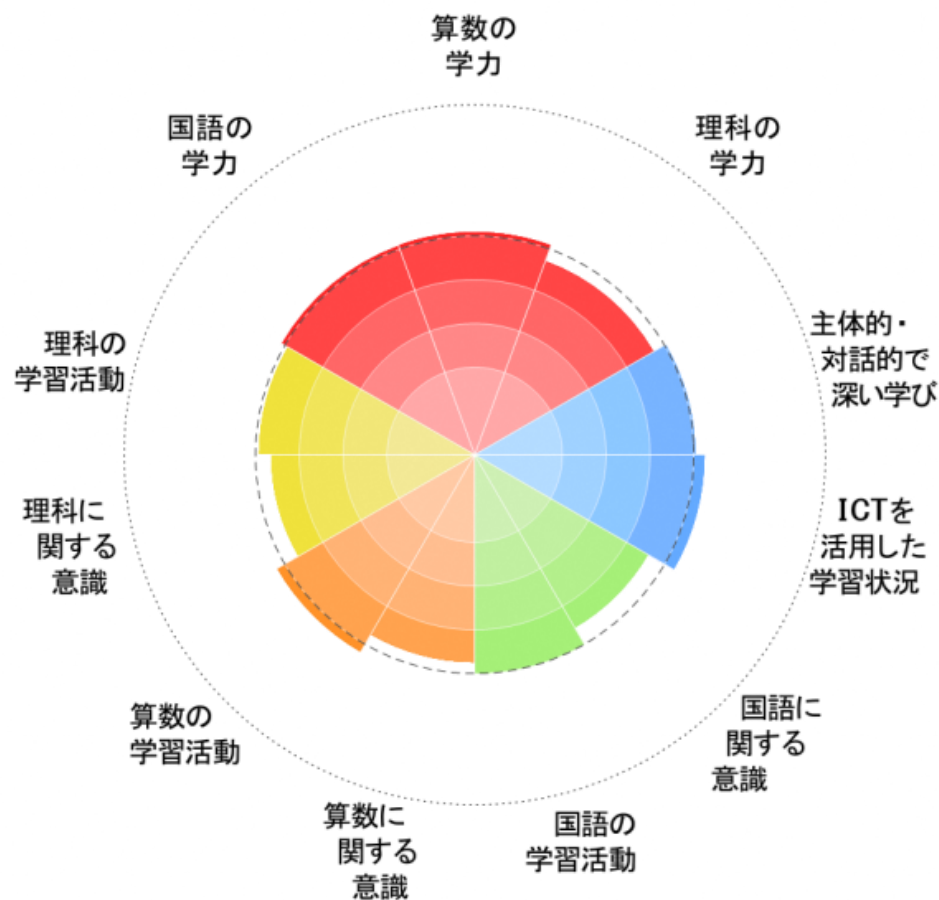
IRTバンド【バンド4・5】に分布する生徒割合が全国より下回っています。

全国学力・学習状況調査結果チャート

市内小学校における教科に関する調査、および児童生徒質問紙調査の結果を標準化して図示したチャートで示しています。

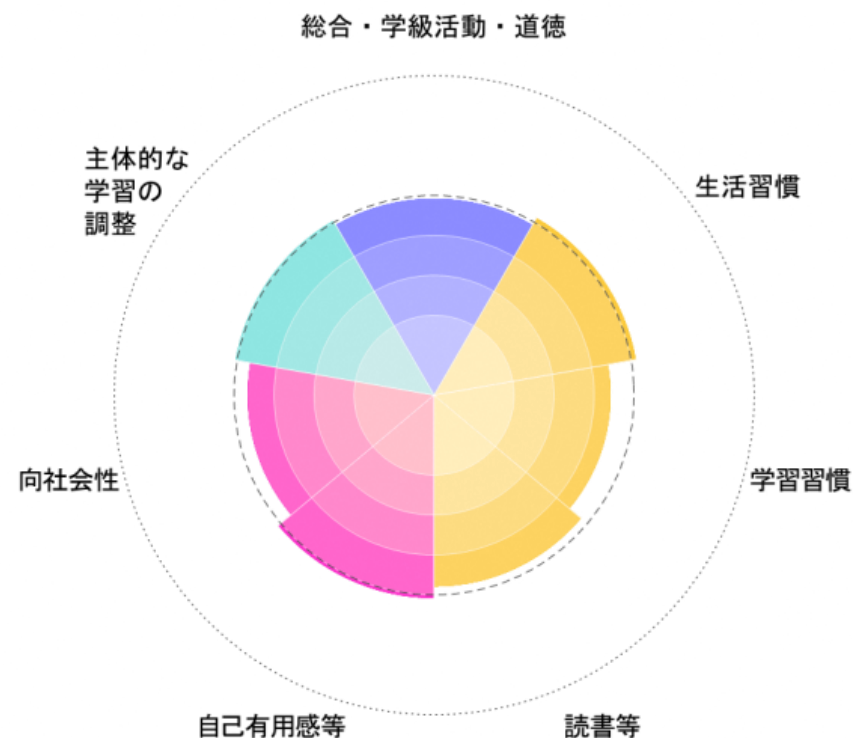
〔教科を中心とした学力・学習状況〕

(全国基準)



〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕

(全国基準)



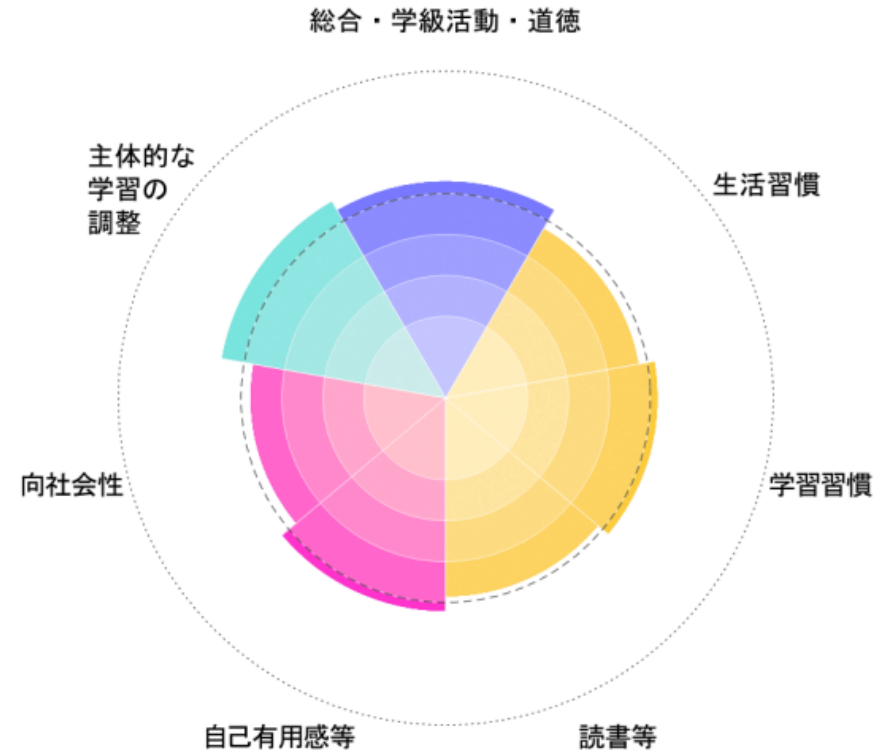
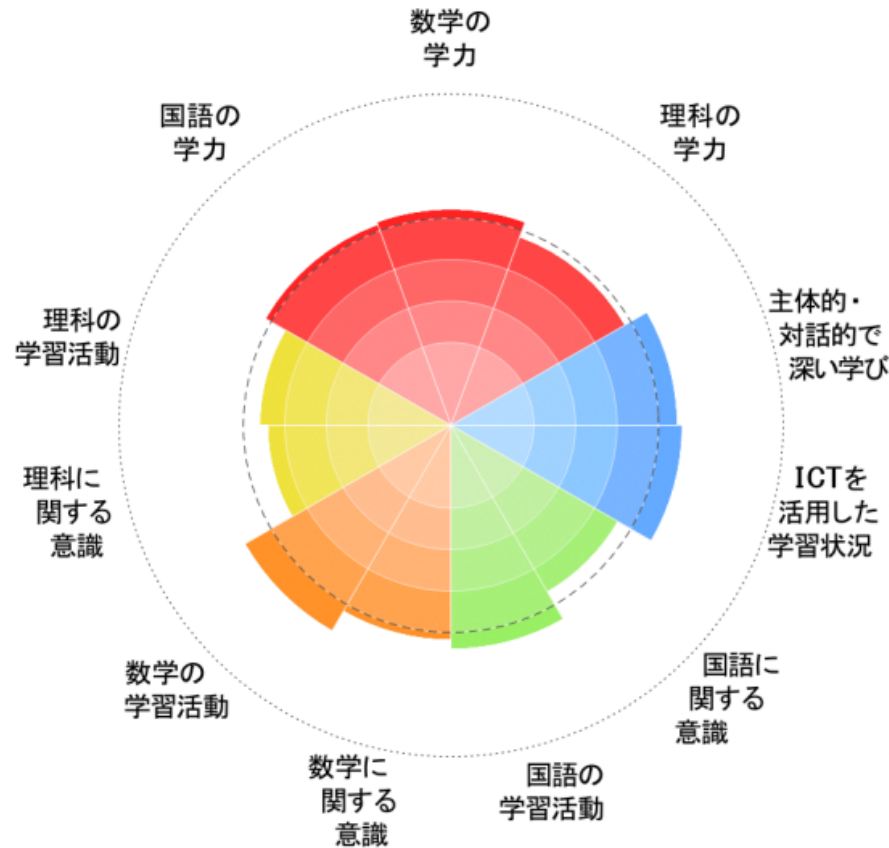
チャート内の点線は、全国の平均値を示しています。

「算数の学習活動」「ICTを活用した学習状況」において全国基準以上となっている。

全国学力・学習状況調査結果チャート

市内中学校における教科に関する調査、および児童生徒質問紙調査の結果を標準化して図示したチャートで示しています。

〔教科を中心とした学力・学習状況〕 〔その他の学力・学習状況（学習習慣、自己有用感等）〕
 （全国基準） （全国基準）



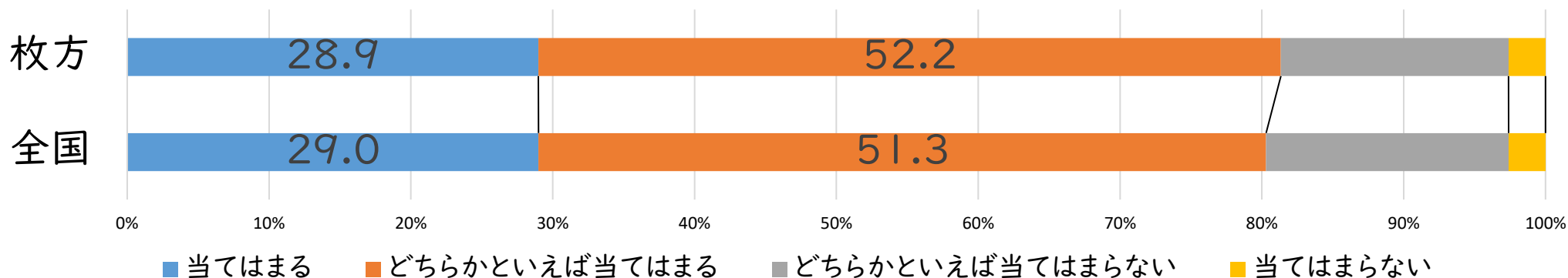
チャート内の点線は、全国の平均値を示しています。

「数学の学習活動」「ICTを活用した学習状況」「主体的な学習の調整」などにおいて
 全国基準以上となっている。

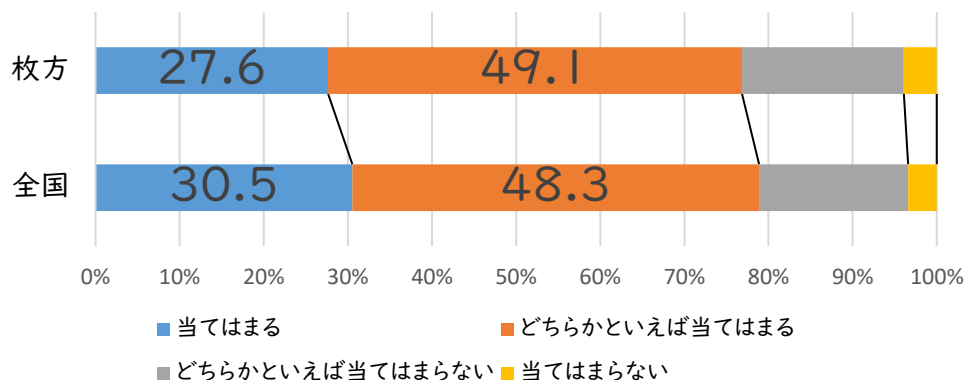
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

5年生（小学校）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか（児童生徒質問紙）

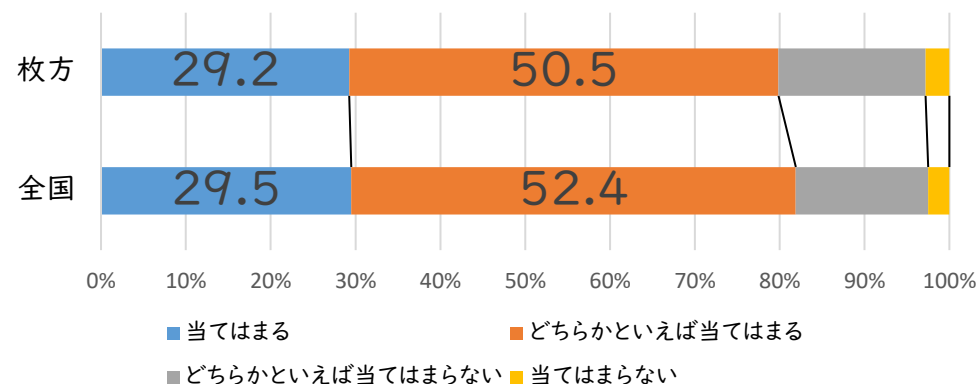
令和7年度



令和5年度



令和6年度

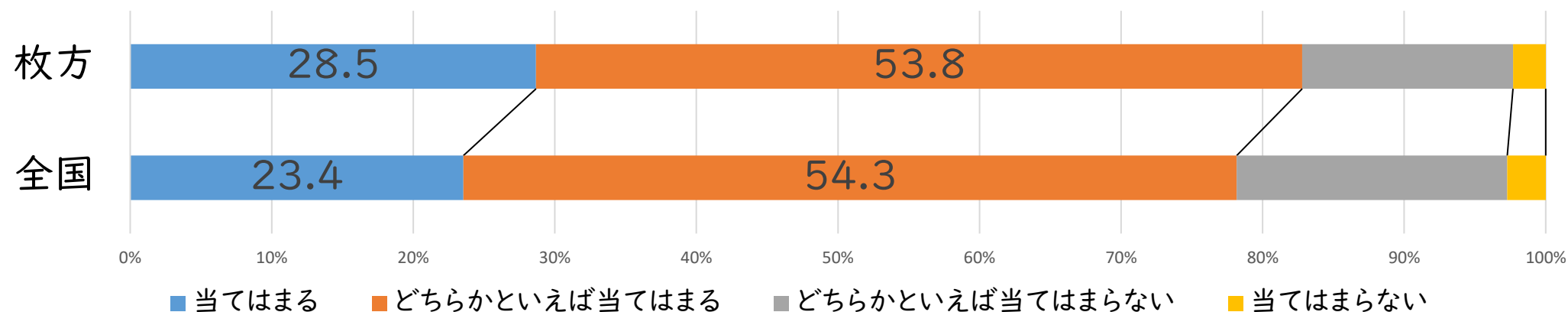


令和7年度は、全国を上回る81.1%の児童が取り組んだと考える。

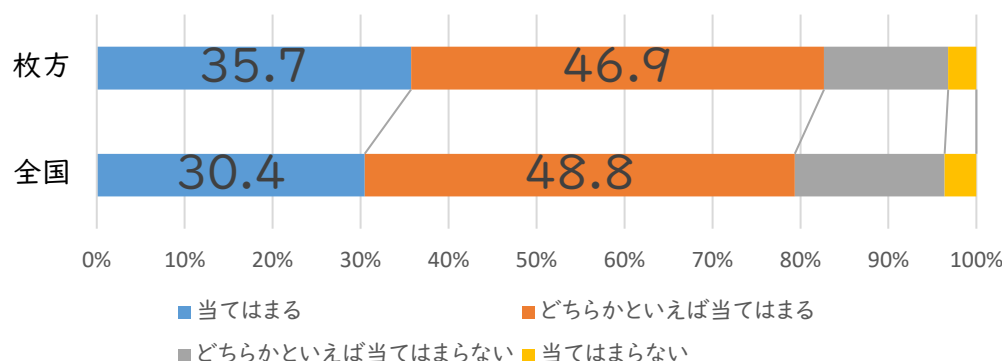
学習指導要領の趣旨を踏まえた取組

1、2年生の時に受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか
(児童生徒質問紙)

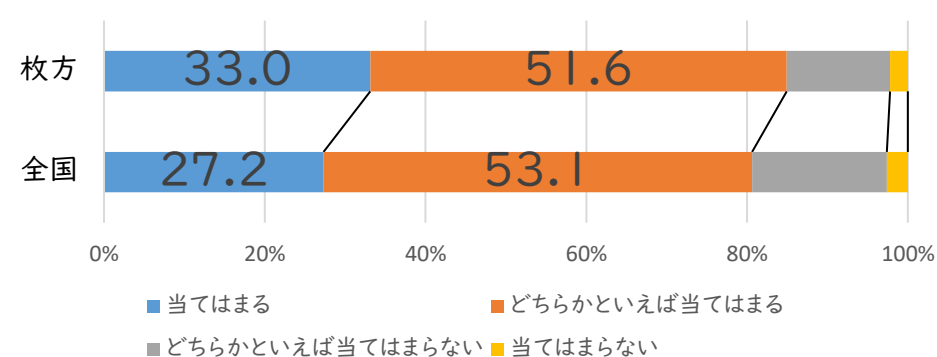
令和7年度



令和5年度



令和6年度

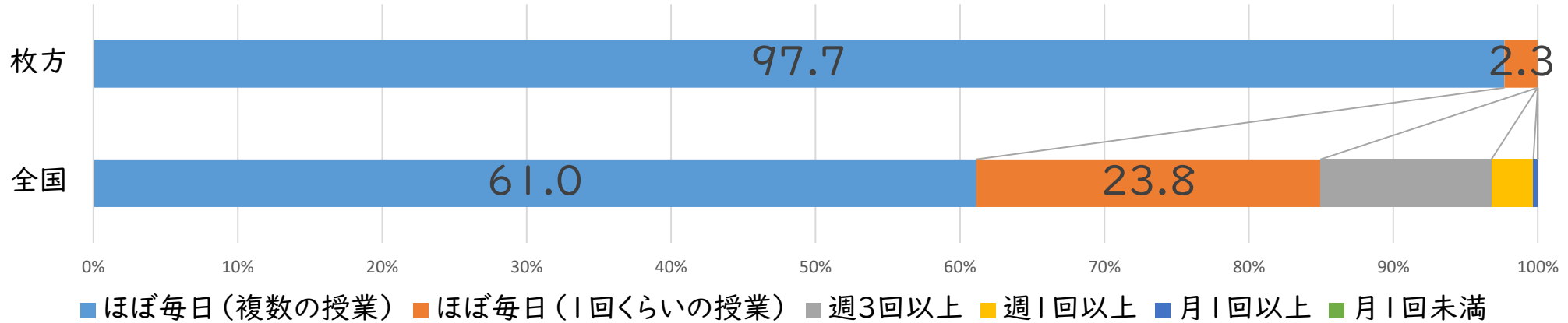


令和7年度は、全国を上回る82.3%の生徒が取り組んだと考える。

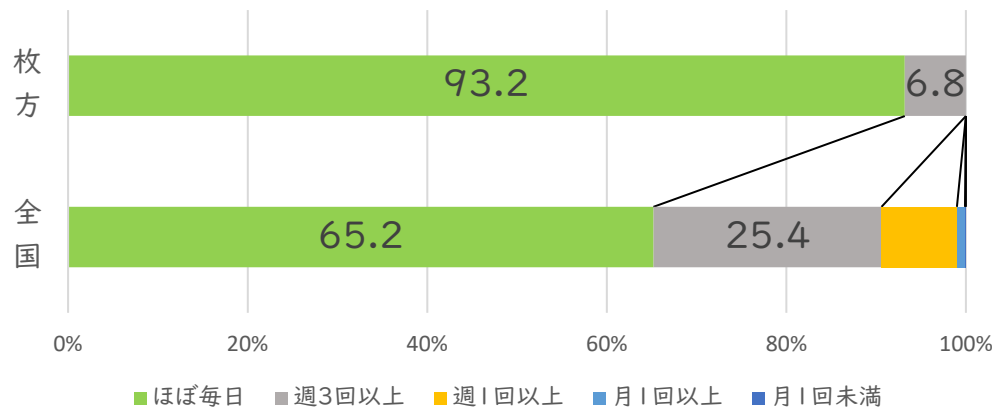
ICT機器の活用

児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
(学校質問紙)

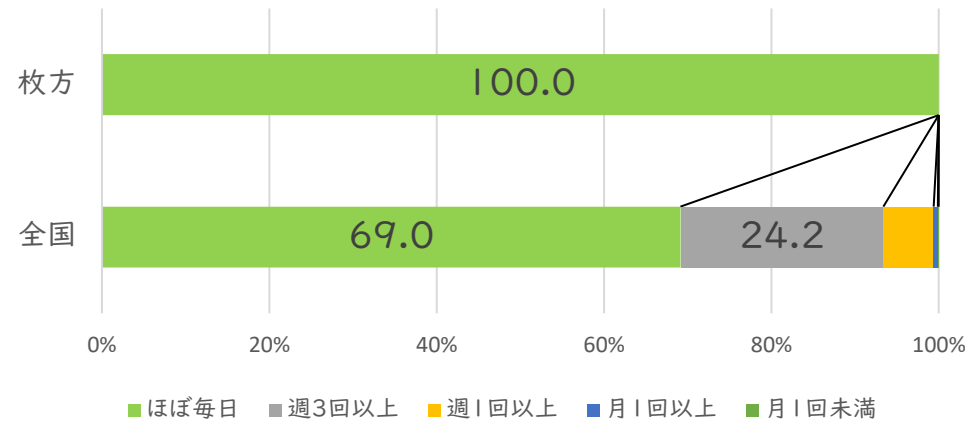
令和7年度



令和5年度



令和6年度

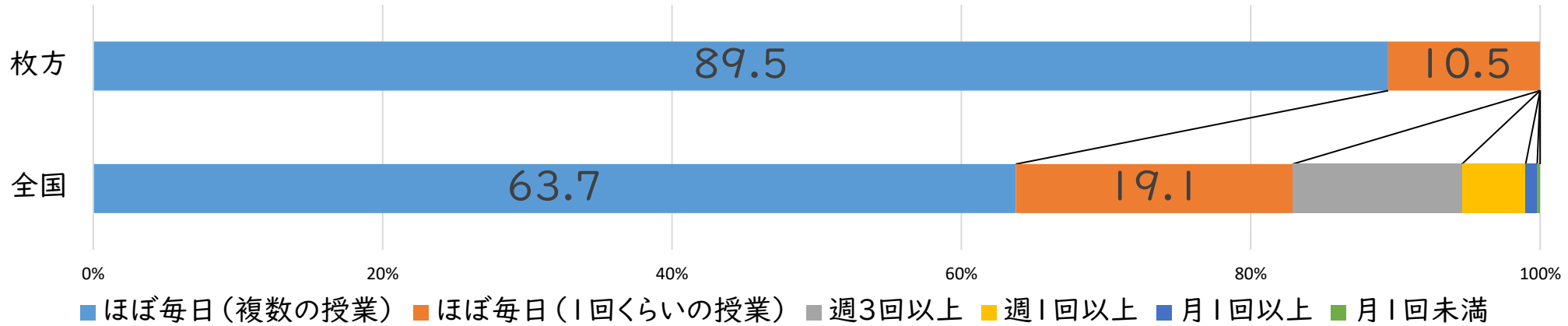


ICT機器を「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」活用する学校が97.7%、「ほぼ毎日(1日に1回ぐらい)」を加えると100%の活用であり、全国と比較して高い。(前年度からの減少はない)

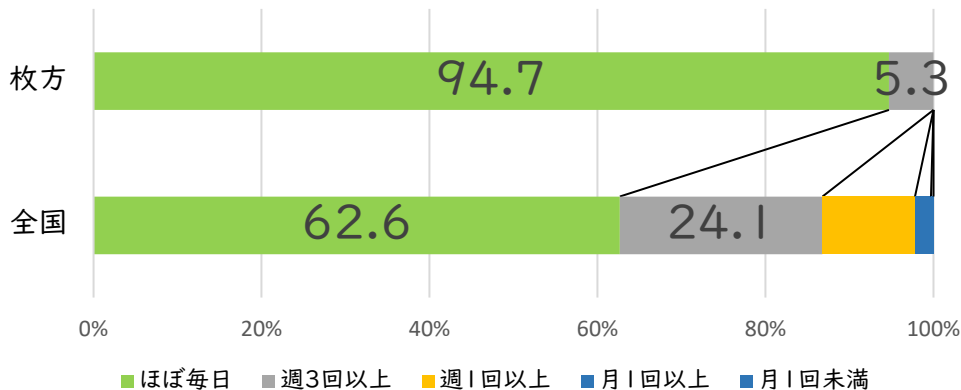
ICT機器の活用

生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか
(学校質問紙)

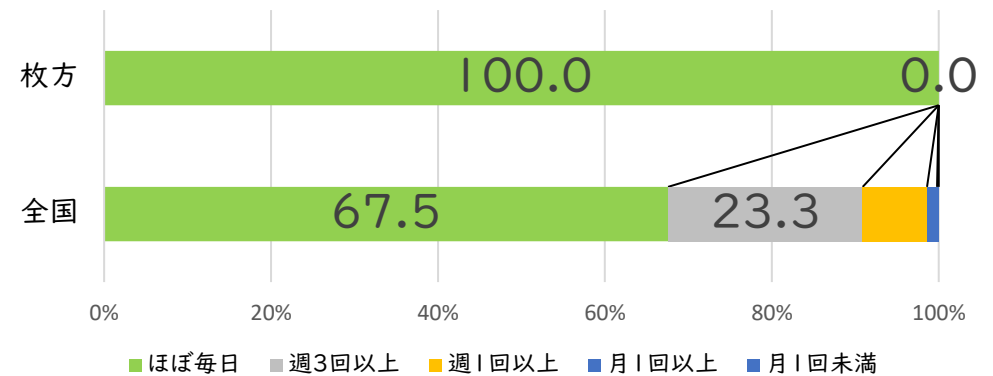
令和7年度



令和5年度



令和6年度

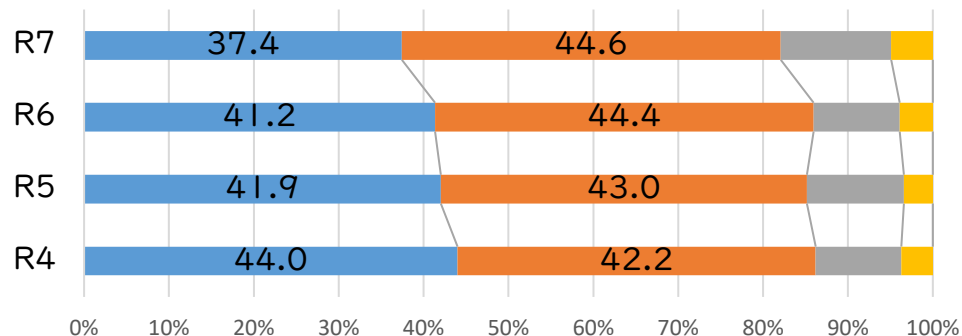


ICT機器を「ほぼ毎日(1日に複数の授業)」活用する学校が89.5%、「ほぼ毎日(1日に1回ぐらい)」を加えると100%の活用であり、全国と比較して高い。(前年度からの減少はない)

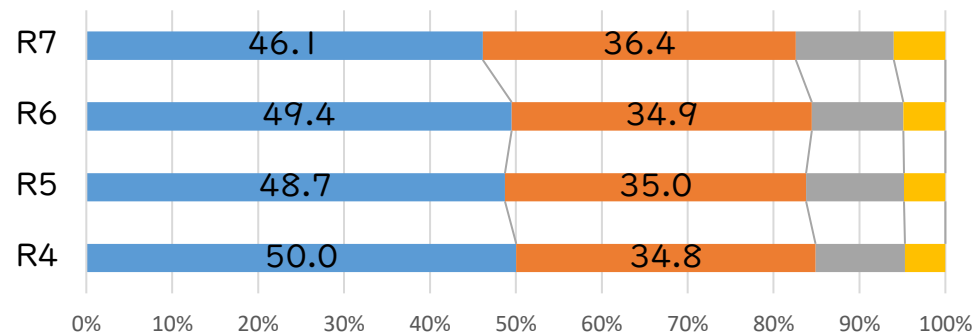
各教科への興味・関心、理解度

国語（算数）の授業の内容はよく分かりますか（児童生徒質問紙）

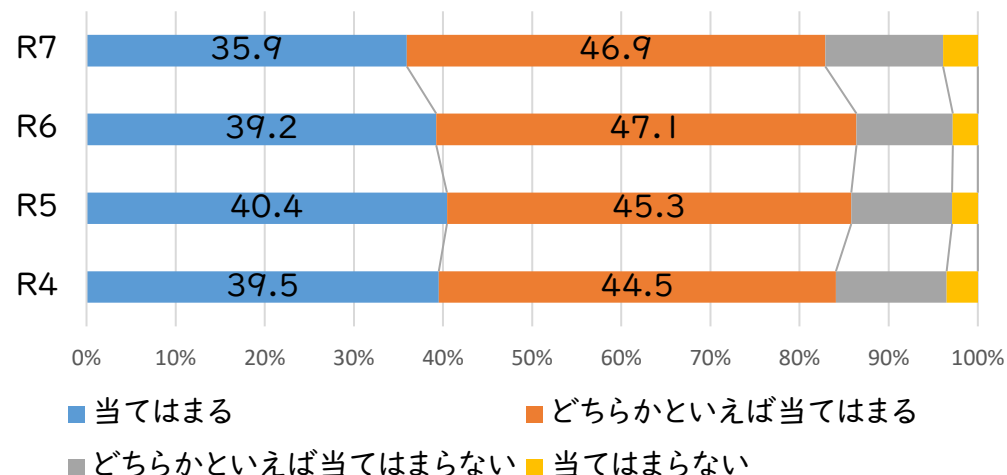
国語（枚方）



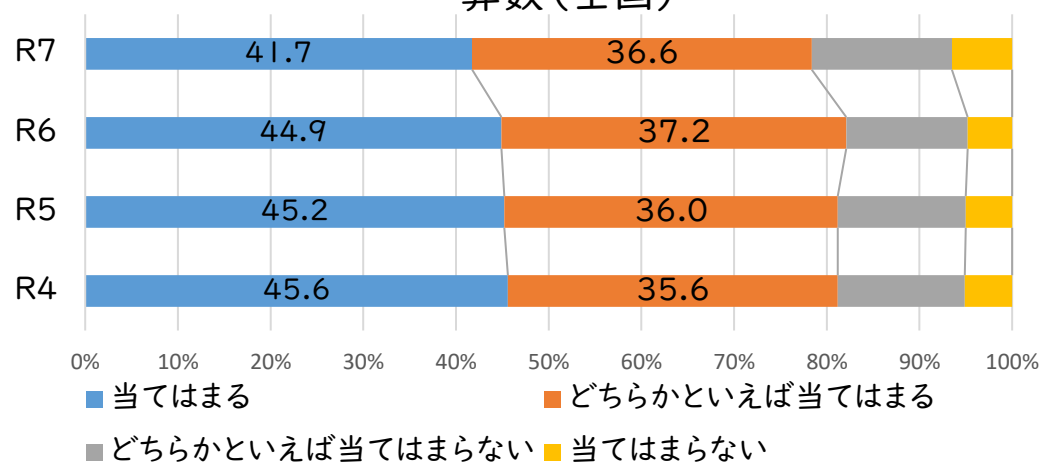
算数（枚方）



国語（全国）



算数（全国）

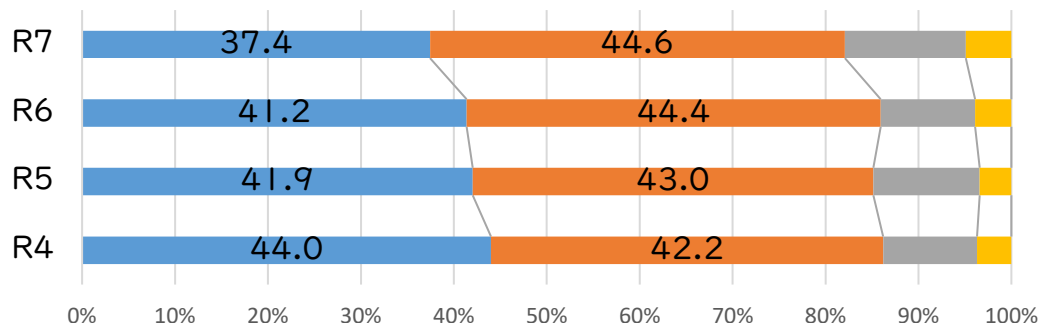


「授業内容がよく分かる」と回答した児童ほど各教科の正答率が高いが、国語・算数で「よく分かる」児童の割合が前回調査から全国と同様に減少している。

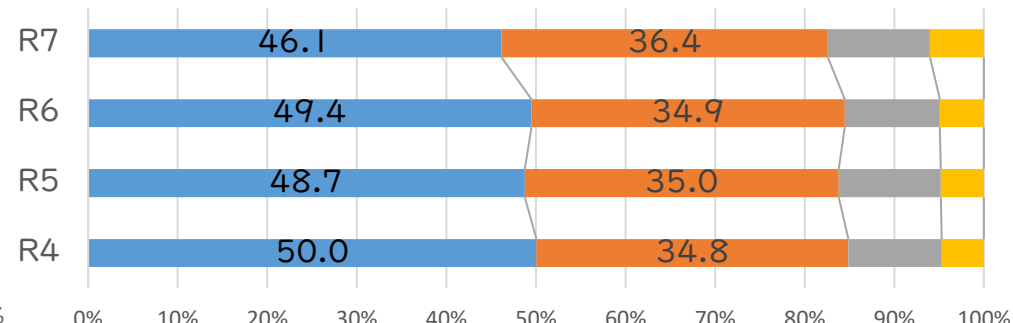
各教科への興味・関心、理解度

国語(数学)の授業の内容はよく分かりますか(児童生徒質問紙)

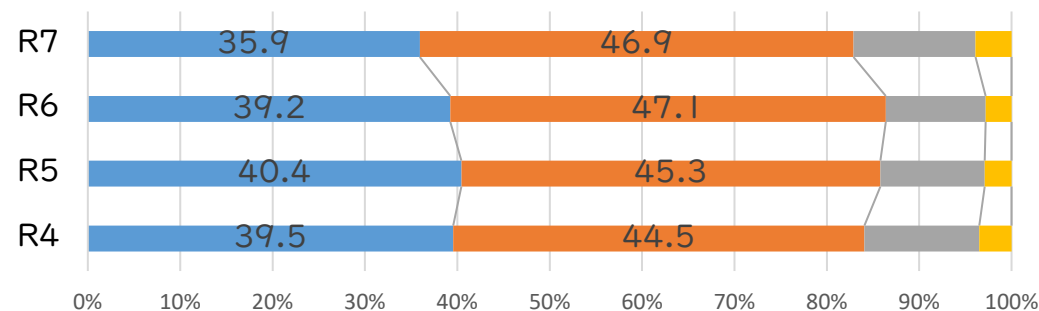
国語(枚方)



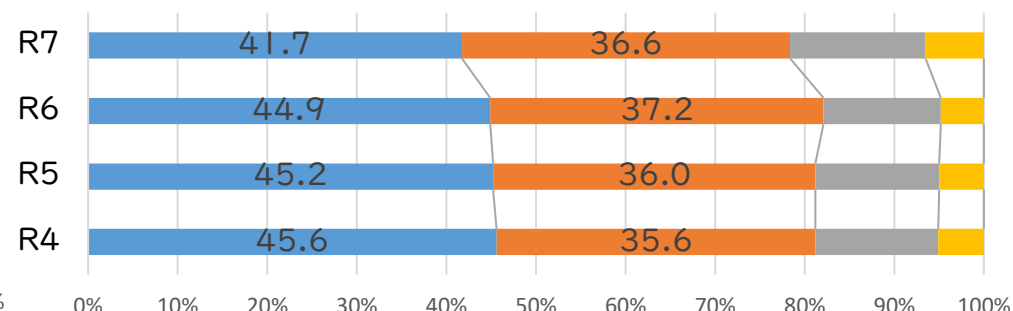
数学(枚方)



国語(全国)



数学(全国)



■ 当てはまる

■ どちらかといえば当てはまる

■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

■ 当てはまる

■ どちらかといえば当てはまる

■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

「授業内容がよく分かる」と回答した児童ほど各教科の正答率が高いが、国語・数学で「よく分かる」生徒の割合が前回調査から全国と同様に減少している。

相関係数とは…

相関係数は「関係性の強さ」を知るための指数です。

例えば…

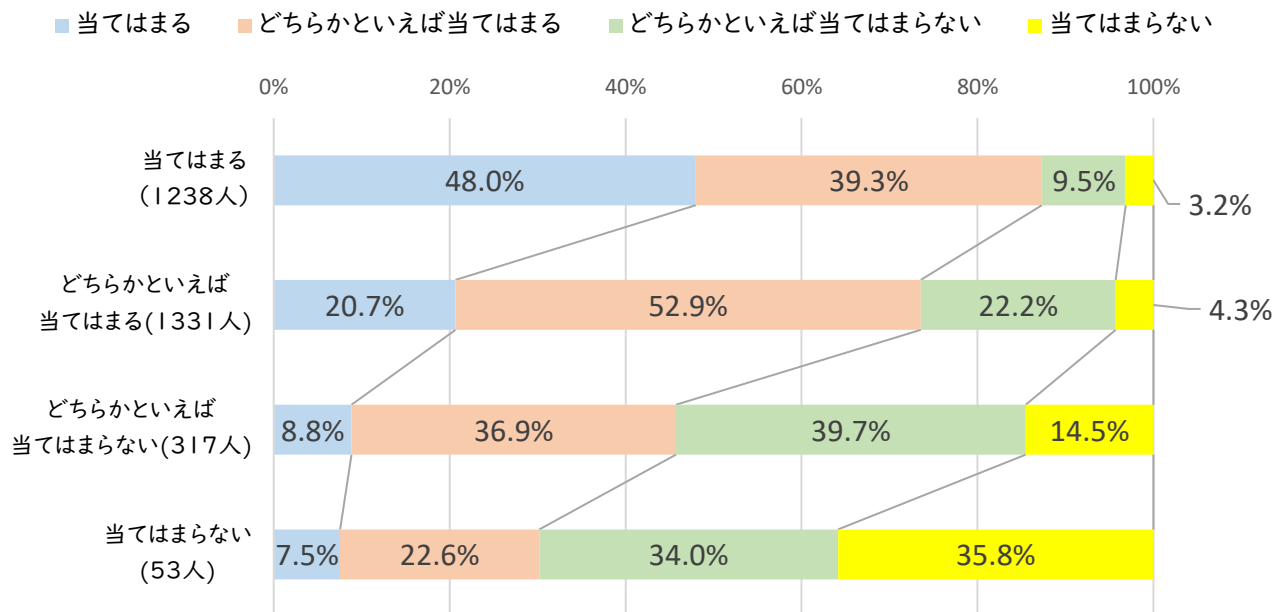
質問紙調査(学習習慣・生活習慣・意識)の回答の関係を分析します。

【相関係数0.388】

児童生徒質問紙項目より

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



この2つの質問の関係性を相関係数を算出することで、

子どもたちの生活習慣や学習行動と学力との関連の強さを数値で把握できます。

文部科学省の公表資料では、相関係数が0.2以上あると「一定の関連性がある」と示しております。

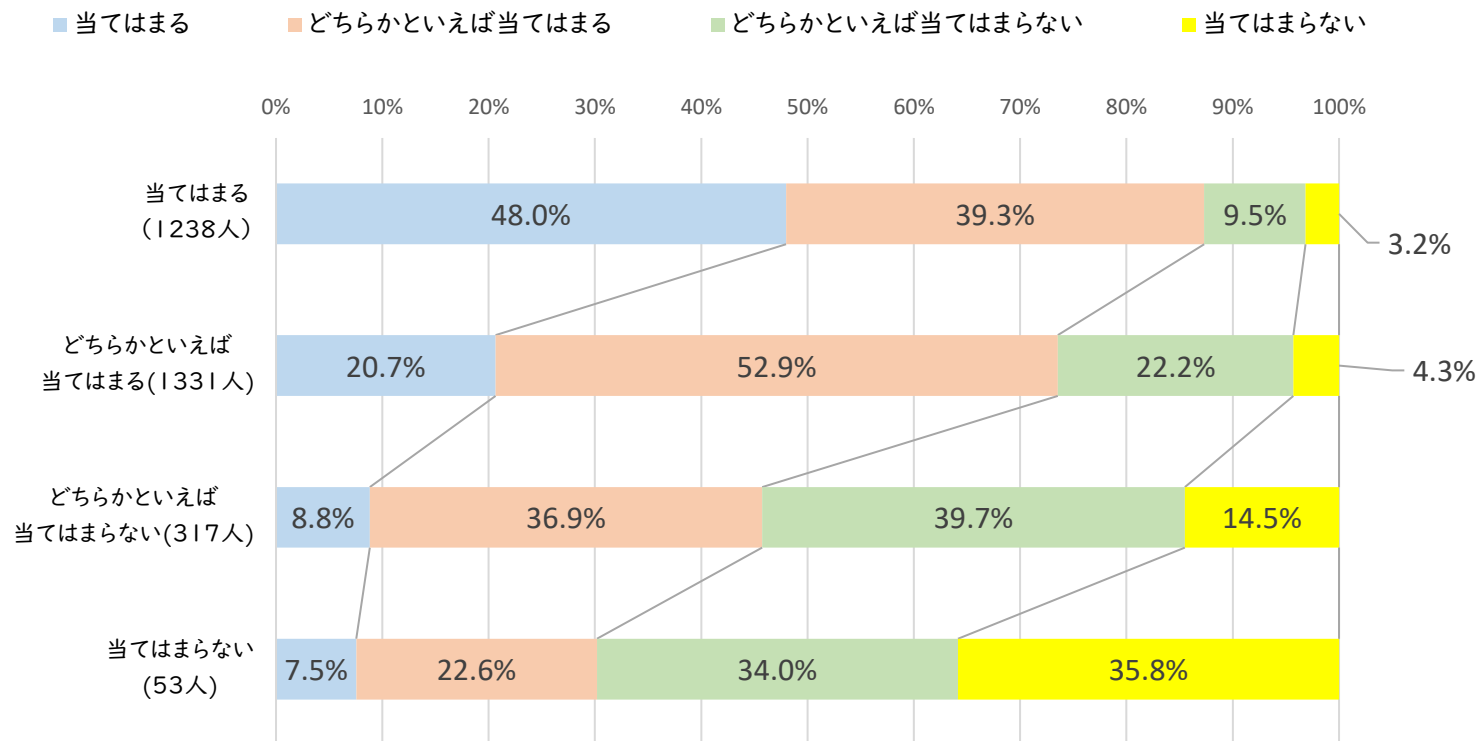
主体的・対話的で深い学びとウェルビーイングのクロス集計

【相関係数0.388】

[話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした]×
[自分と違う意見について考えるのは楽しい]

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



「話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」と回答した児童ほど、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

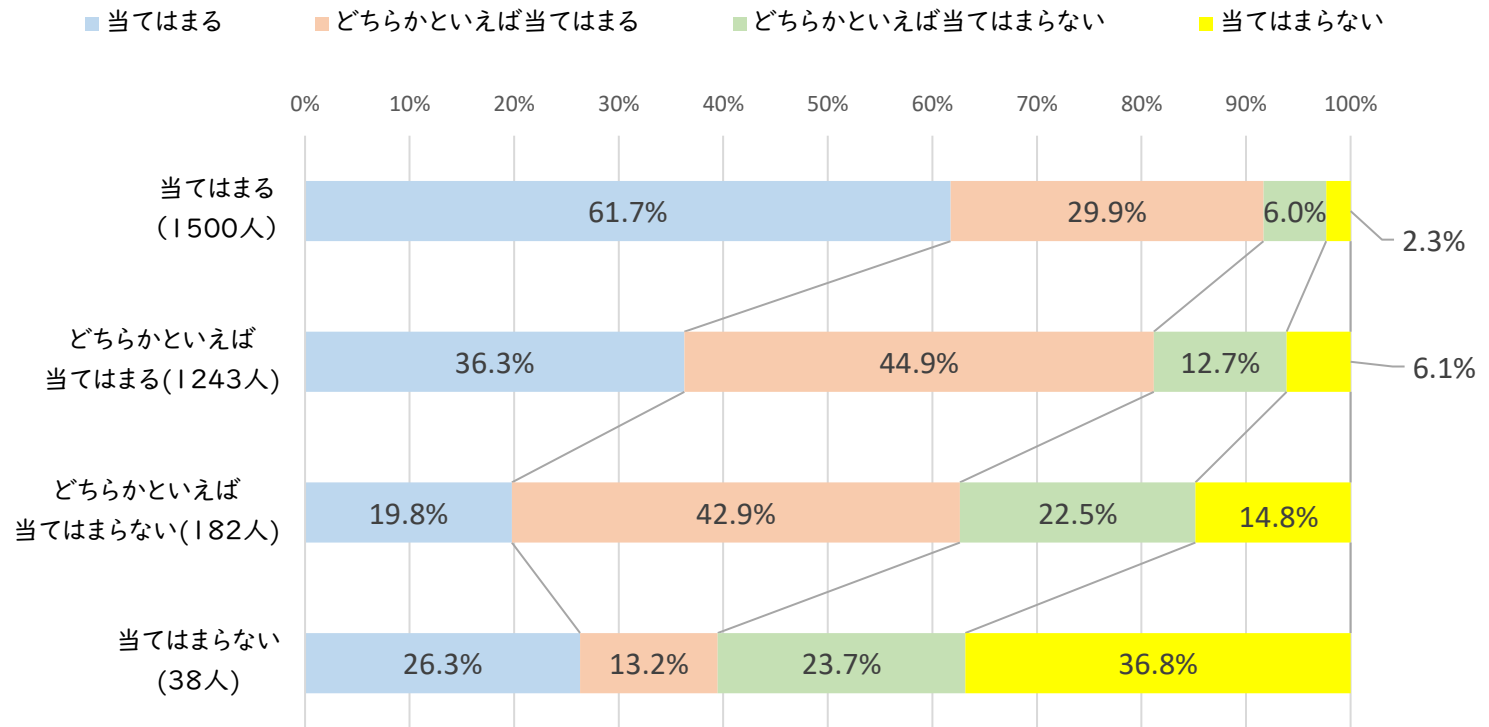
主体的・対話的で深い学びとウェルビーイングのクロス集計

【相関係数0.321】

[協働的な学び]×[学校に行くのは楽しい]

学校に行くのは楽しいと思いますか。

授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



「協働的な学び（友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組む）」に取り組んでいると回答した児童ほど、「学校に行くのは楽しい」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

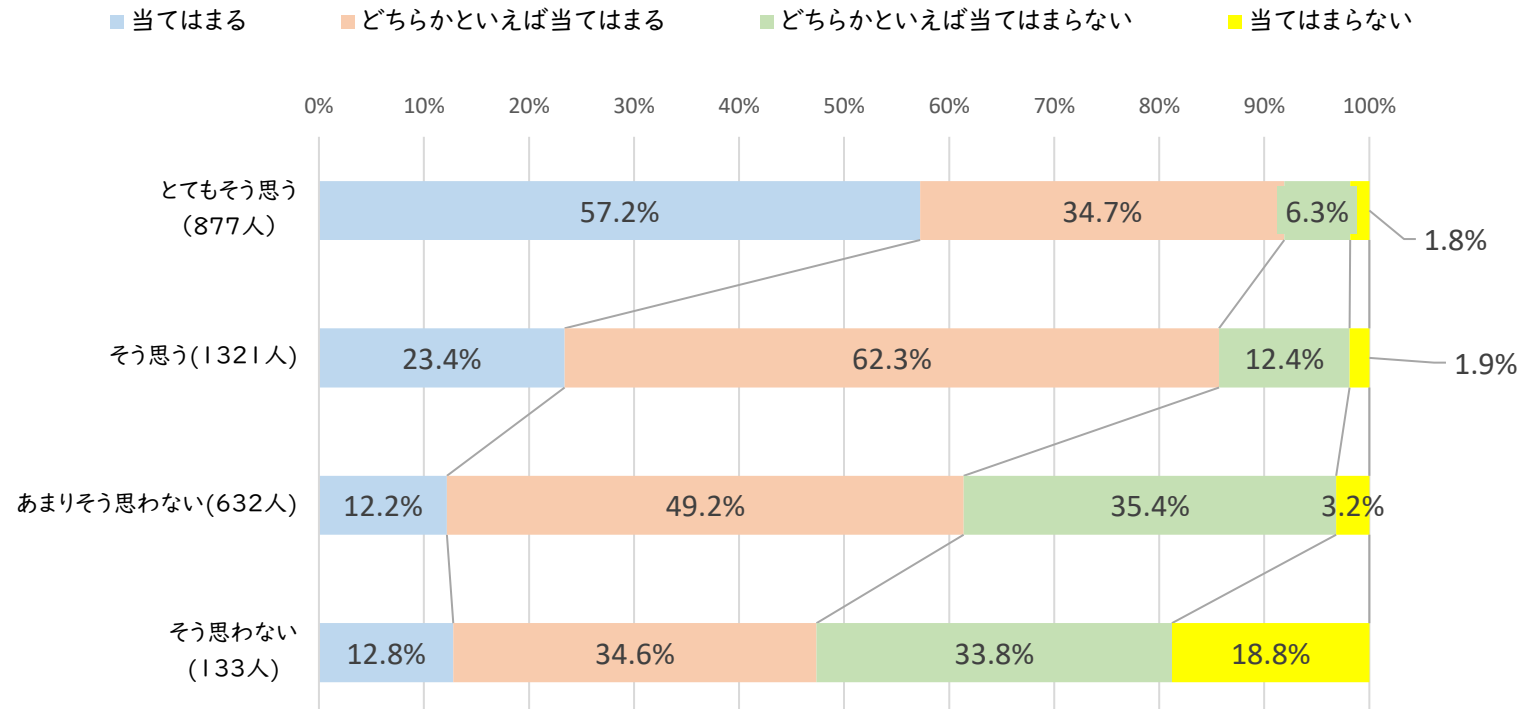
ICTを活用する自信と探究的な学びのクロス集計

【相関係数0.400】

[ICT機器を使って情報を整理できる]×
[学んだことを生かしながら考えをまとめていた]

授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか。

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理する(図、表、グラフ、思考ツールなどを使ってまとめる)ことができると思いますか。



「ICTを使って情報を整理できる」と回答した児童ほど、「学んだことを生かしながら考えをまとめていた」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

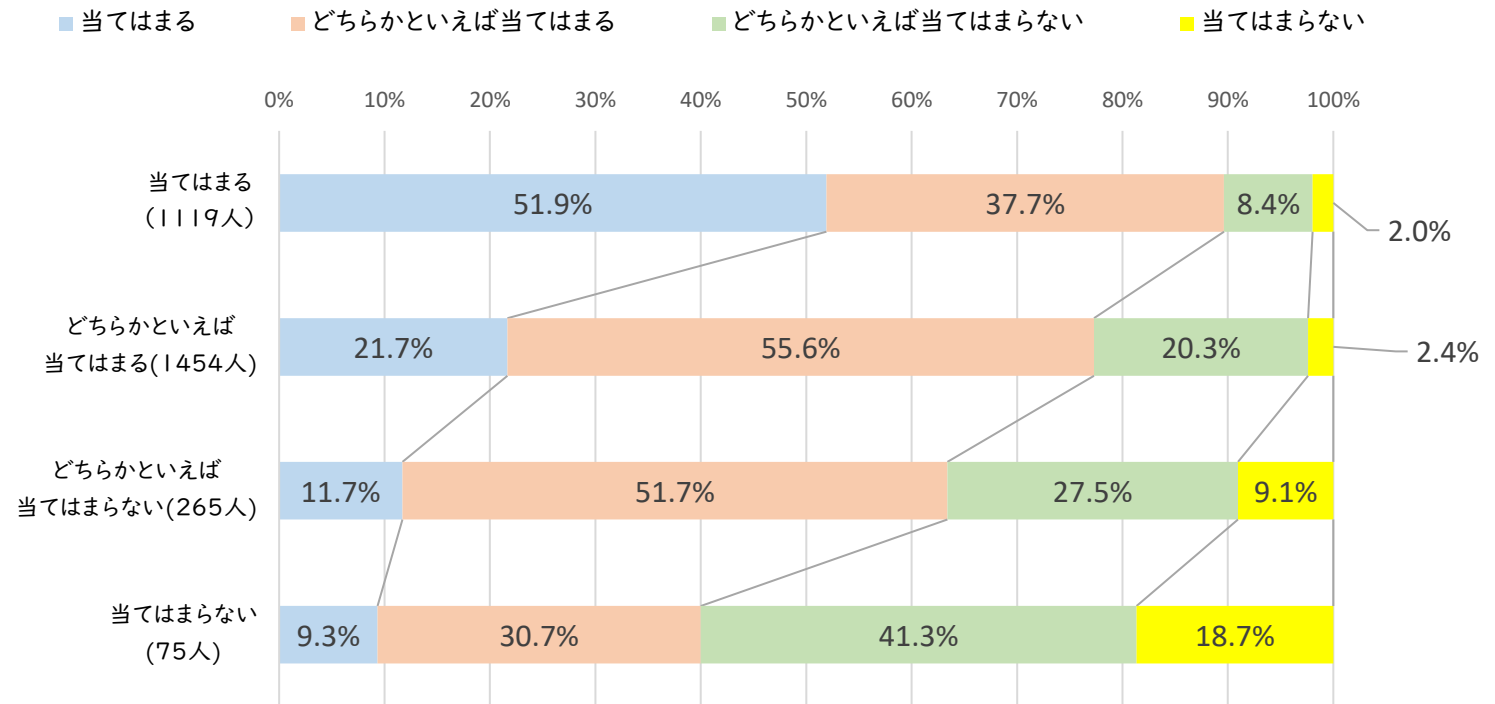
主体的・対話的で深い学びとウェルビーイングのクロス集計

【相関係数0.352】

〔話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした〕×
〔自分と違う意見について考えるのは楽しい〕

自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか。

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。



「話合いで考えを深めたり新たな考えに気付いたりした」と回答した生徒ほど、「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

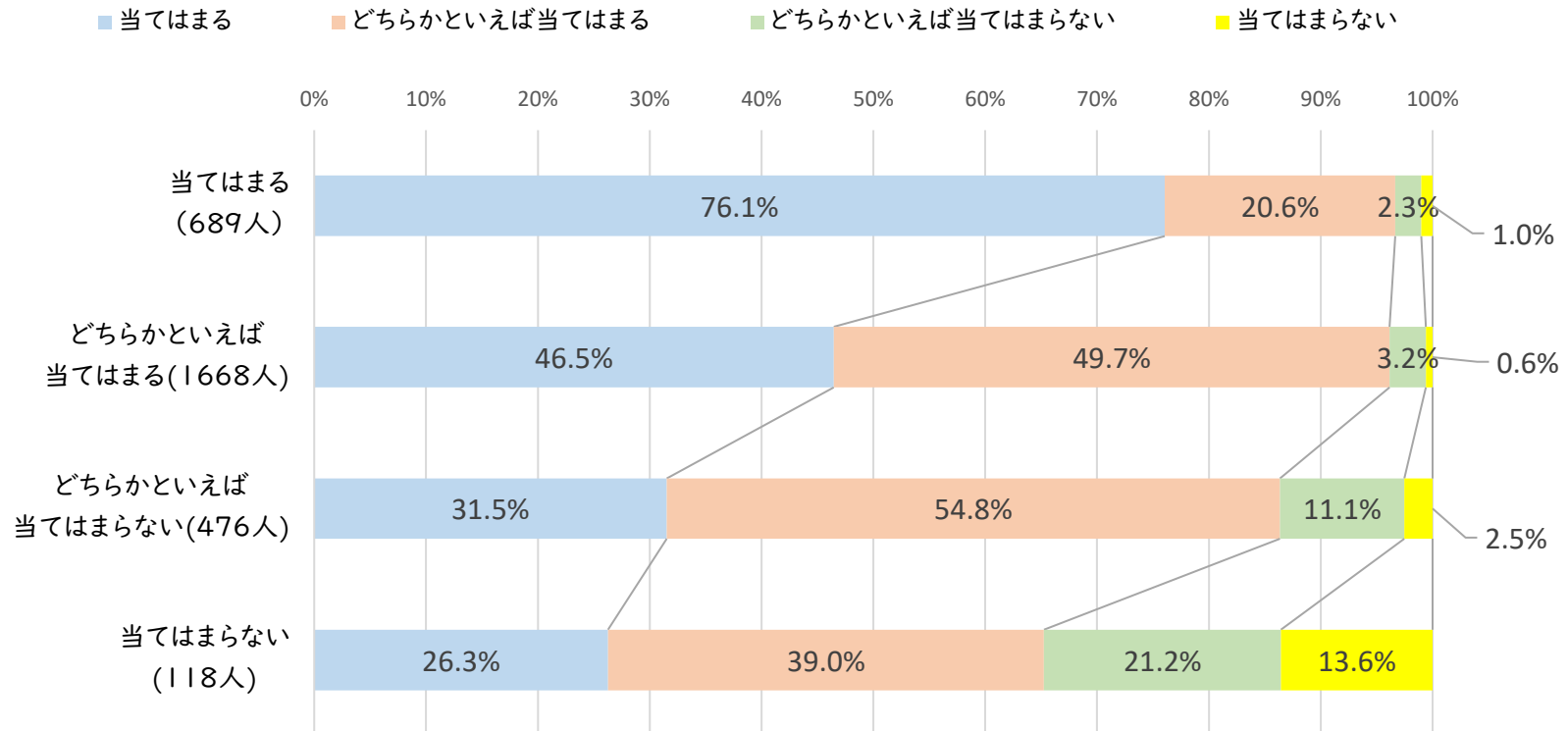
主体的・対話的で深い学びとウェルビーイングのクロス集計

【相関係数0.323】

[個別最適な学び]×[先生がよいところを認めてくれている]

先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

授業は、自分にあつた教え方、教材、学習時間などになっていましたか。



「個別最適な学び（自分にあつた教え方、教材、学習時間）」に取り組んだと回答した生徒ほど、「先生がよいところを認めてくれている」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

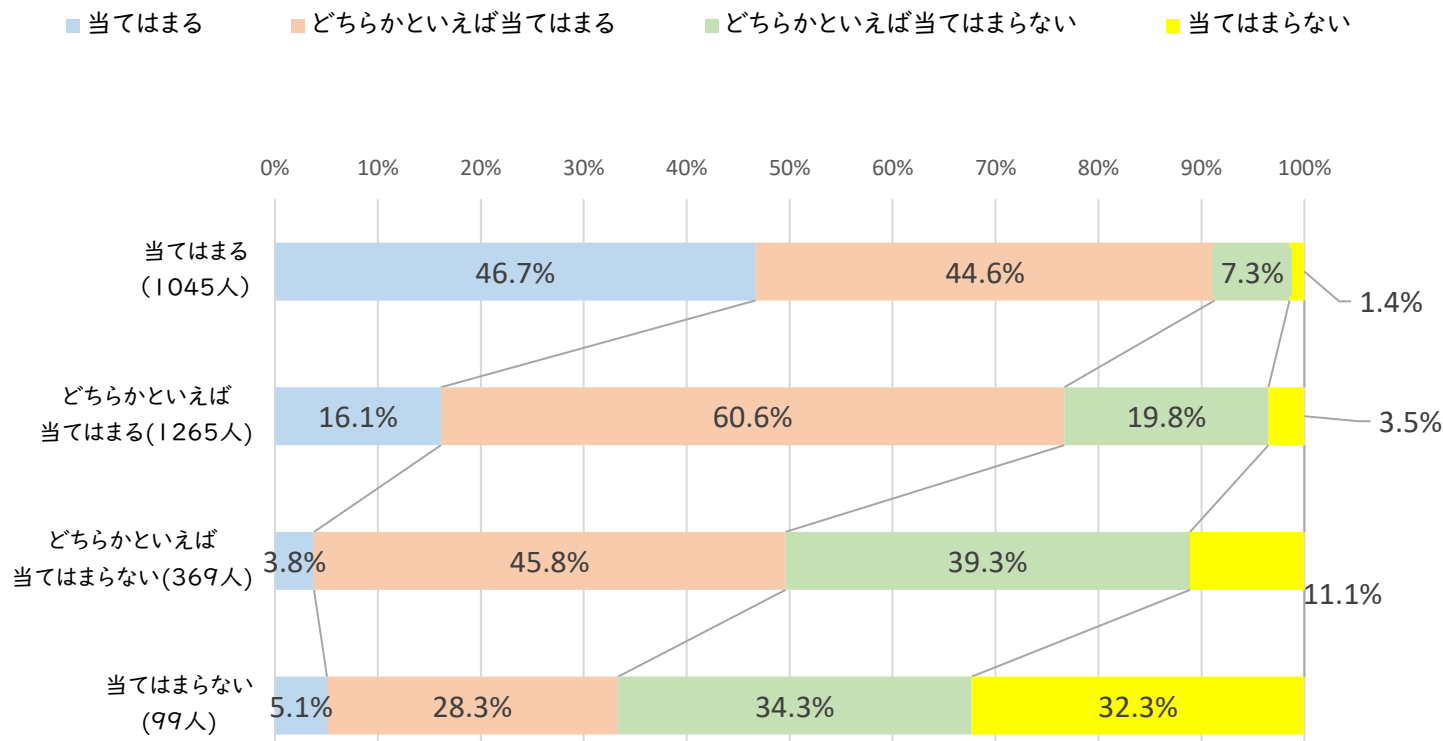
ICTを活用する自信と探究的な学びのクロス集計

【相関係数0.440】

〔ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる〕×
〔授業で工夫して発表していた〕

授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。

あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って学校のプレゼンテーション（発表のスライド）を作成することができると感じますか。



「ICT機器を使って学校のプレゼンテーションを作成できる」と回答した生徒ほど、「授業で工夫して発表していた」という質問に「当てはまる」と回答をしている割合が高い。

ウェルビーイング 主観的幸福感

質問紙調査「(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか」との相関があるものを一覧化しています
(相関係数0.2以上)

質問事項	(12)との 相関係数
(2) 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	0.219
(5) 自分には、よいところがあると思いますか	0.273
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	0.297
(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか	0.289
(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	0.309
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	0.265
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	0.359
(14) 友達関係に満足していますか	0.326
(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	0.361
(16) 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	0.269
(25) これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	0.226
(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	0.304

ウェルビーイング 主観的幸福感

質問紙調査「(12) 学校に行くのは楽しいと思いますか」との相関があるものを一覧化しています
(相関係数0.2以上)

質問事項	(12)との 相関係数
(5) 自分には、よいところがあると思いますか	0.339
(6) 先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	0.348
(8) 人が困っているときは、進んで助けていますか	0.331
(10) 困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	0.312
(11) 人の役に立つ人間になりたいと思いますか	0.306
(13) 自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	0.328
(14) 友達関係に満足していますか	0.441
(15) 普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	0.420
(16) 分からないことやくわしく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	0.277
(25) これまでの生活の中で、自然の中で遊ぶことや自然観察をすることがありましたか	0.207
(26) 地域の大人に、授業や放課後などで勉強やスポーツ、体験活動に関わってもらったり、一緒に遊んでもらったりすることがあります(習い事は除く)	0.204
(27) 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	0.246

成果

小学校の調査結果（国語・算数）では、平均正答率が全国と同等又は上回る結果となりました。質問紙調査からも「ICTを活用した学習状況」でも肯定的回答が全国平均を上回っていることから、ICTを活用することで自分の考えたことを発表するなどの言語活動の充実につなげた取組の成果が表れていると考えられます。

中学校の調査結果（国語・数学）では、平均正答率が全国と同等又は上回る結果となりました。国語・数学ともに「思考・判断・表現」の領域で全国平均を上回っていることや質問紙調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる」肯定的回答が上昇していることから、自ら課題を設定し学んだことを生かしながら主体的に考え、表現する力を授業を通して身に付けてきた成果と考えられます。

課題

小中学校ともに理科において、全国平均を下回る結果となりました。また、小学校国語では「読むこと」、算数では「測定」、中学校国語では「言葉の特徴や使い方に関すること」、数学では「データ活用」に課題が見られました。

また、児童生徒質問紙調査では、全国と同様に小中学校ともに「国語（算数・数学）の授業の内容はよく分かりますか」の項目で、肯定的回答の割合が年々減少傾向にあります。

これらの成果・課題を受け、今後詳細な分析を踏まえながら枚方市では引き続き授業改善に向けた支援・研修等を行い、子どもたちの育成を図っていきます。

《参考資料》